



【施業前1】



【施業後1】

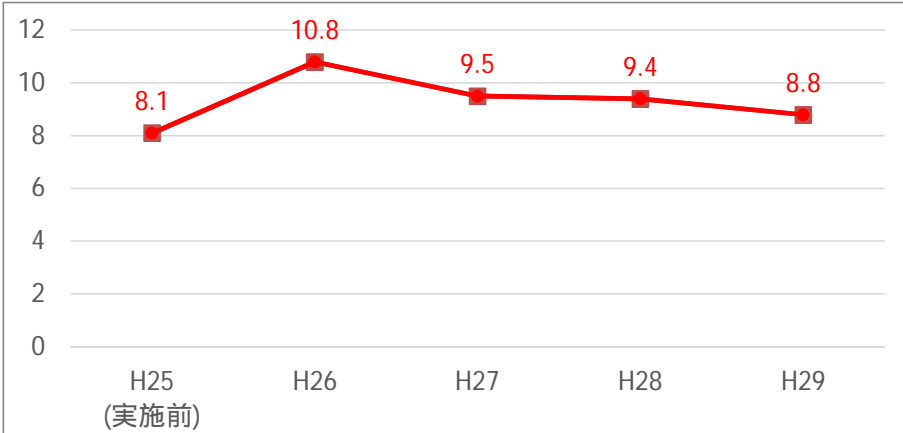


【施業前2】

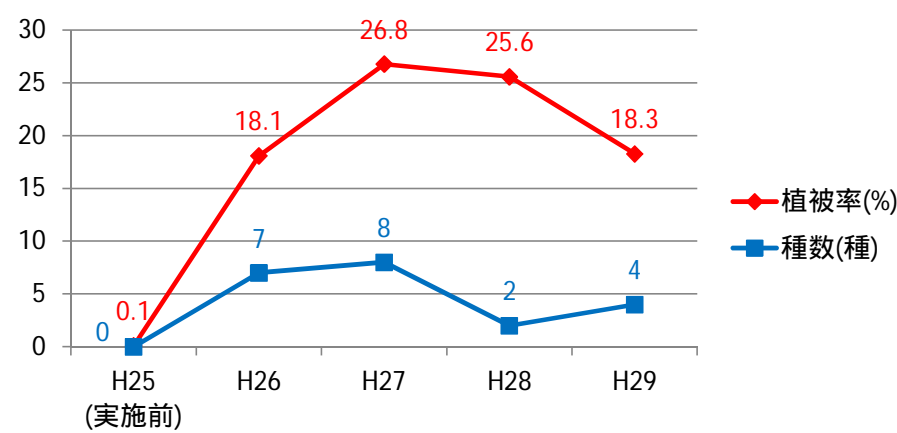


【施業後2】

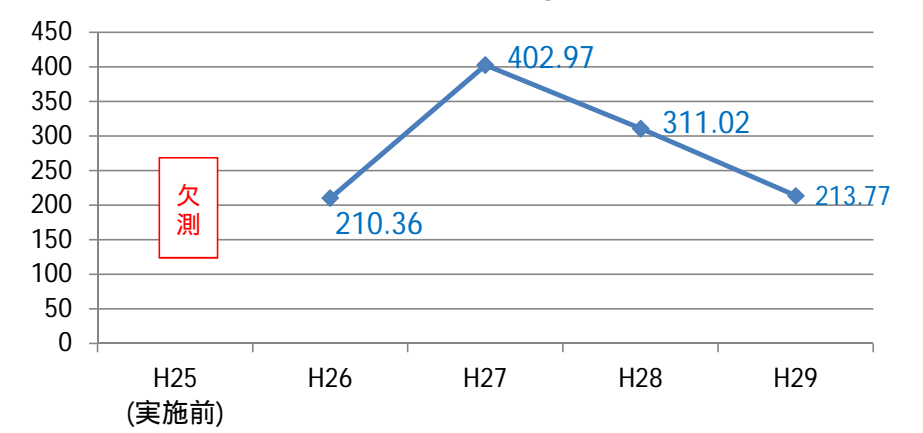
光環境調査 【開空度の推移(%)】



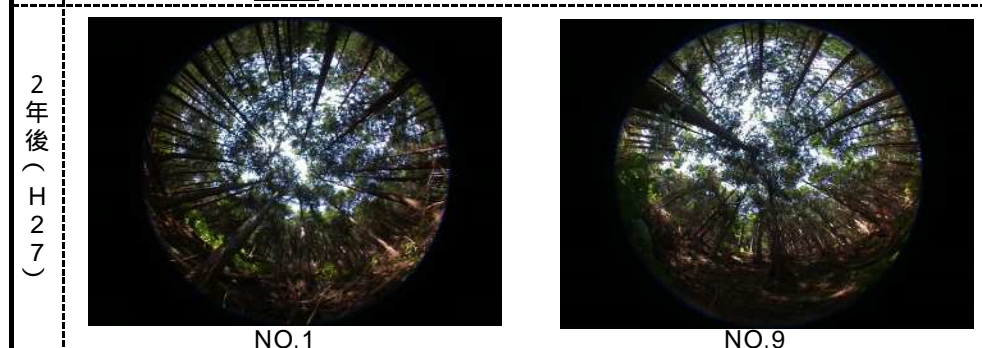
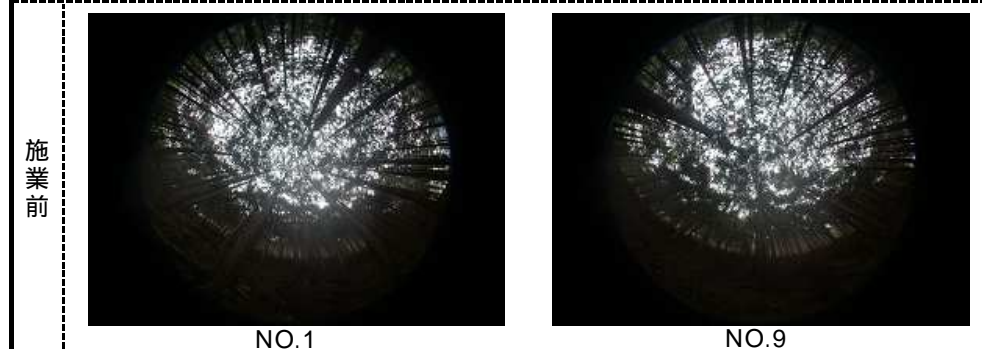
植生・更新調査 【植被率(%)・木本種数(種)の推移】



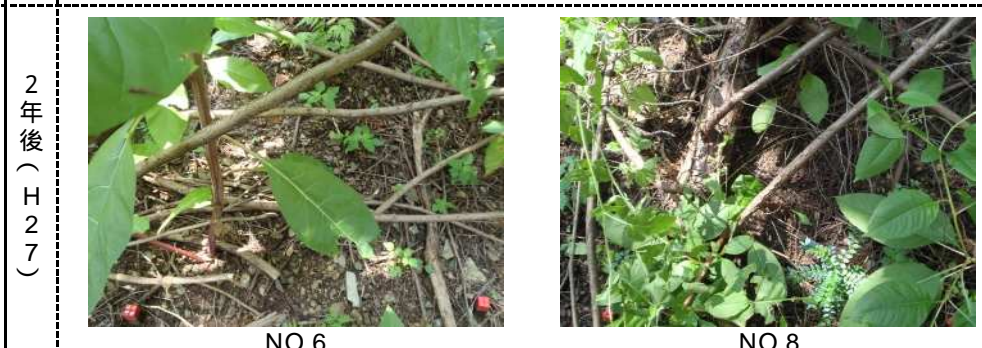
土壌移動量調査 【土砂の移動量の推移(g)】



状況写真



状況写真



状況写真



【現況】

毎木調査項目	施業前	施業後	備考
調査区内立木本数(本)	63	37	
平均胸高直径(cm)	21.5	24.9	

- ・間伐の実施により、林内が明るくなった。
- ・地表面の傾斜は35°と急勾配。
- ・伐採木が林内に残置されている。
- ・腐植層は薄く、表土が露出しているが、安定している。

【所見】

- ・開空度は間伐後の状態をほぼ維持していた。
- ・土壌移動量は継続して減少した。
- ・植被率は低下し、木本種数の回復も緩慢であることから、今後の推移を注視する必要がある。

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)



NO.1



NO.9

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)



NO.6



NO.8

4
年
後
(
H
2
9
)



NO.1



NO.9

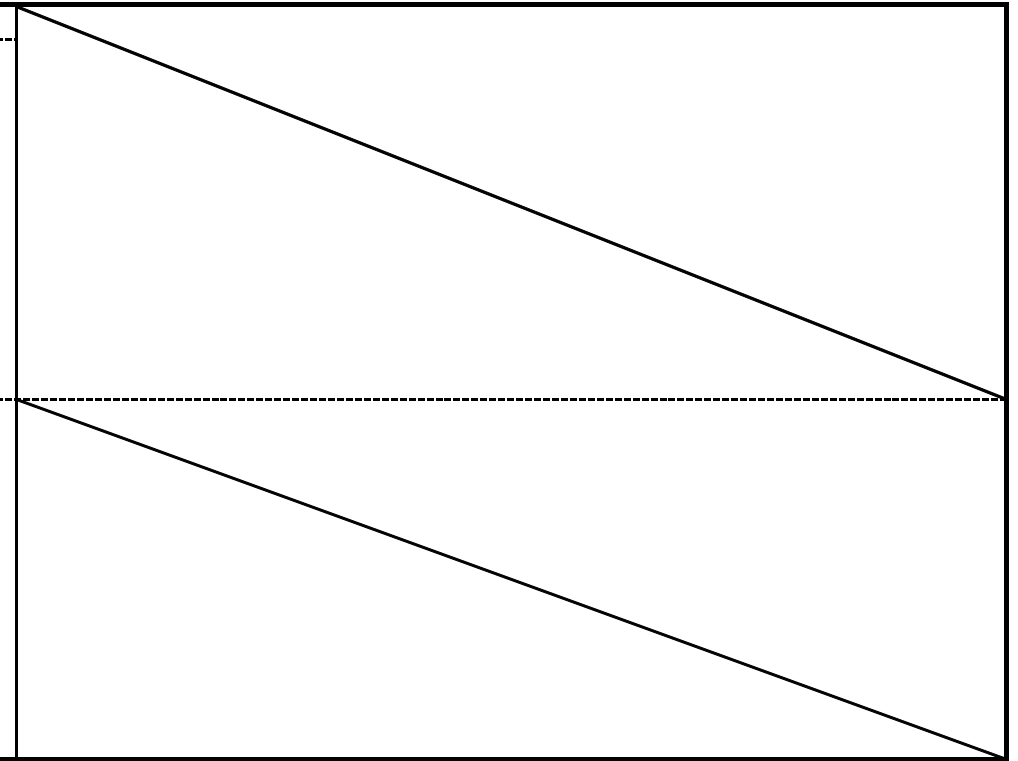
4
年
後
(
H
2
9
)

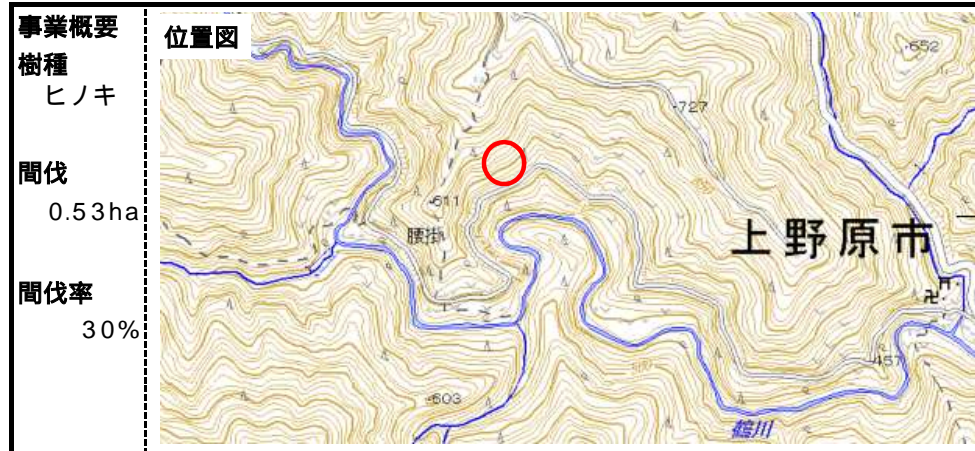


NO.6



NO.8





【施業前1】



【施業後1】

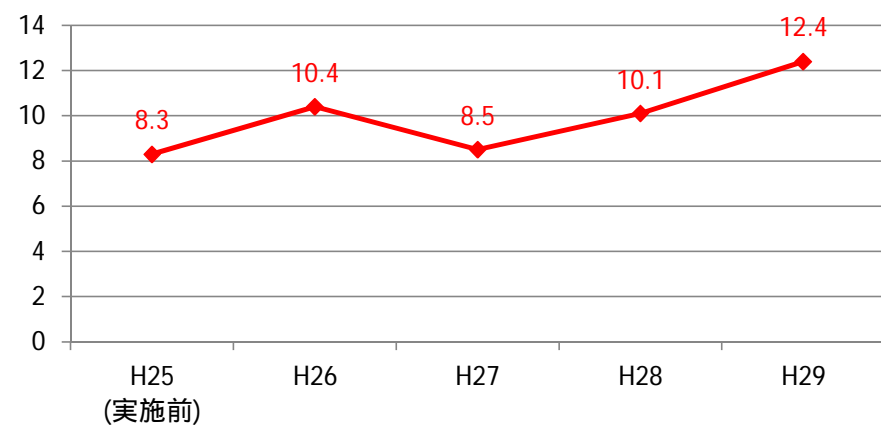


【施業前2】

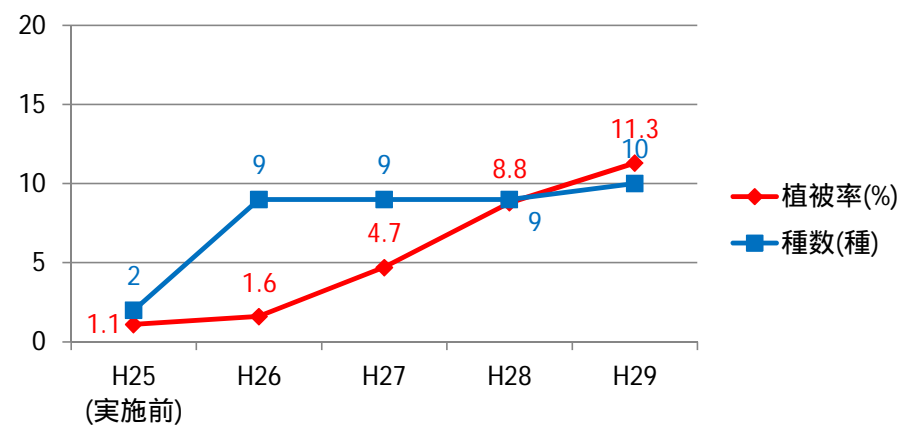


【施業後2】

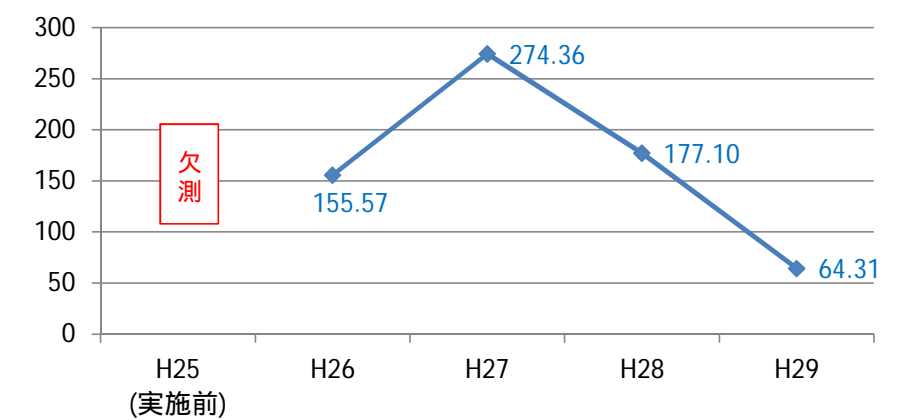
光環境調査 【開空度の推移(%)】



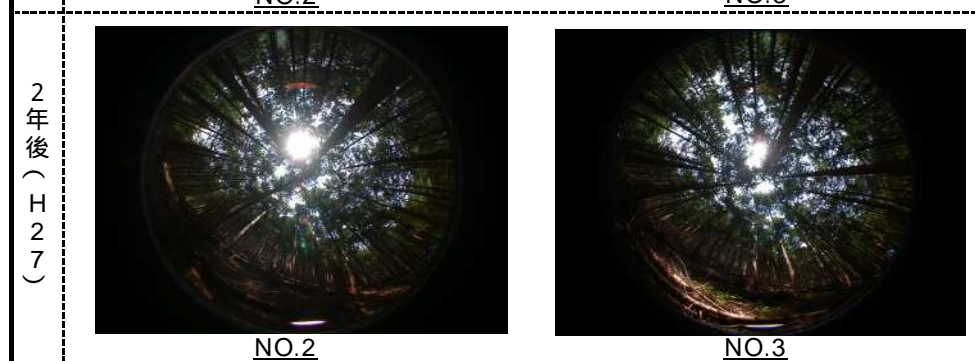
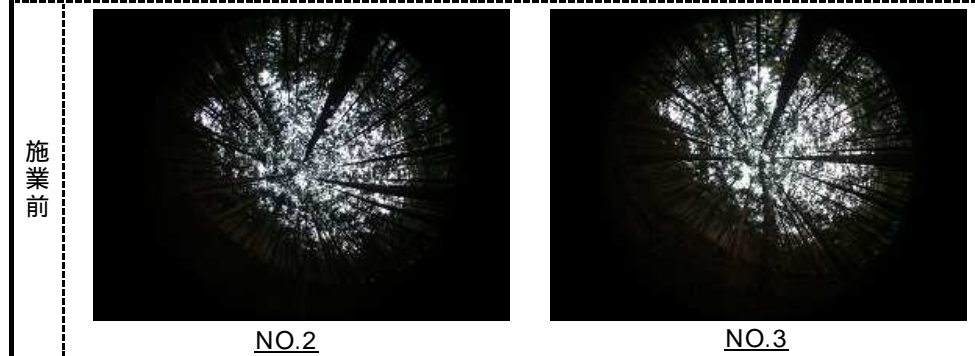
植生・更新調査 【植被率(%)・木本種数(種)の推移】



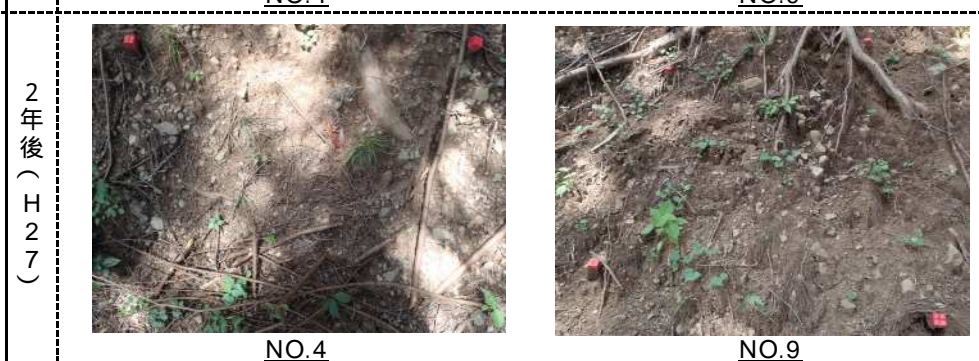
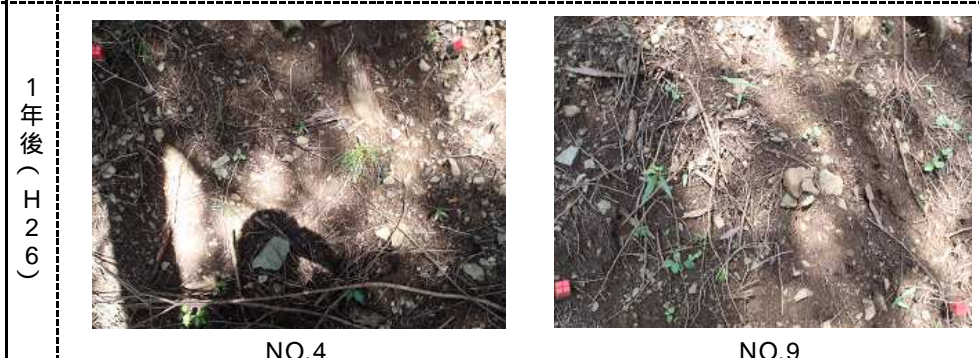
土砂移動量調査 【土砂の移動量の推移(g)】



状況写真



状況写真



状況写真



【現況】

毎木調査項目	施業前	施業後	備考
調査区内立木本数(本)	82	55	
平均胸高直径(cm)	18.5	20.8	

- ・間伐の実施により、林内が明るくなった。
- ・地表面の平均傾斜は37°と急勾配。
- ・伐採木が林内に集積されている。
- ・腐植層は薄く、表土が露出しているが、安定している。

【所見】

- ・開空度は間伐後の状態から上昇し、植被率も上昇している。
- ・土砂の移動量は減少し、植被率の上昇が寄与していると考えられる。

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)



NO.2



NO.3

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)



NO.4



NO.9

4
年
後
(
H
2
9
)



NO.2



NO.3

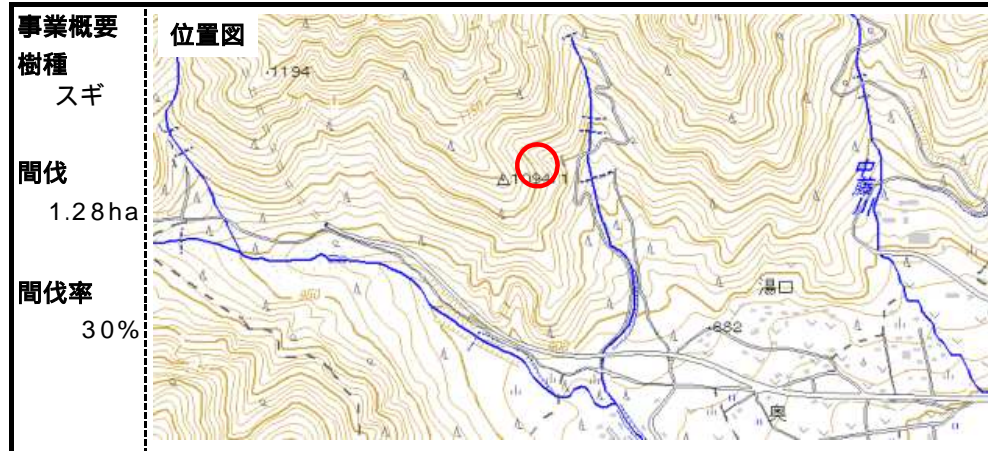
4
年
後
(
H
2
9
)



NO.4



NO.9



【施業前1】



【施業後1】

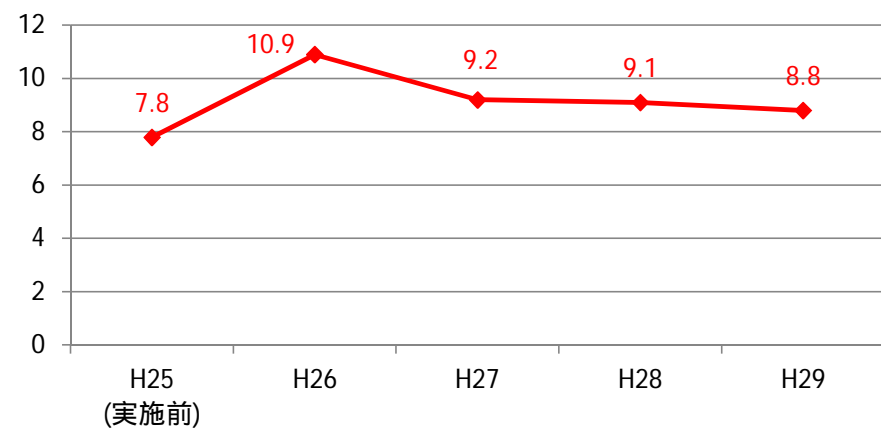


【施業前2】

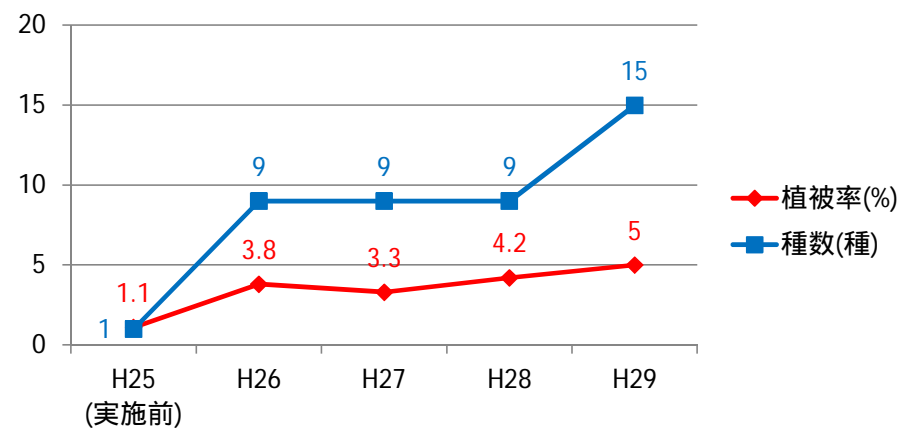


【施業後2】

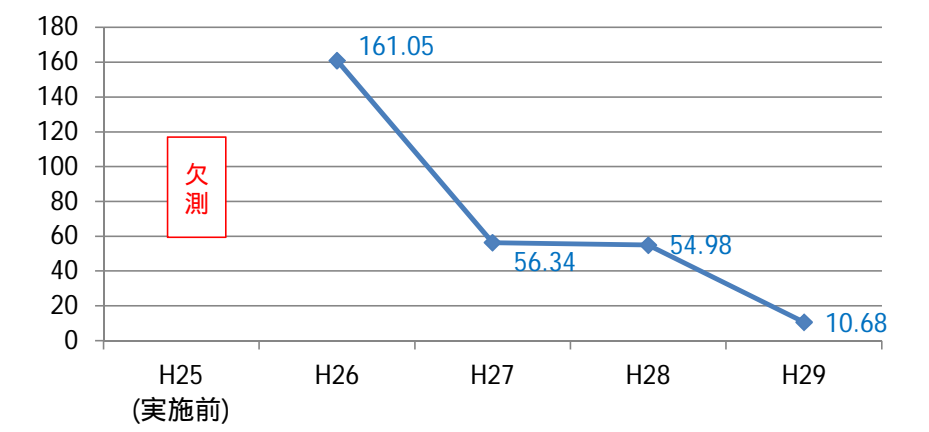
光環境調査 【開空度の推移(%)】



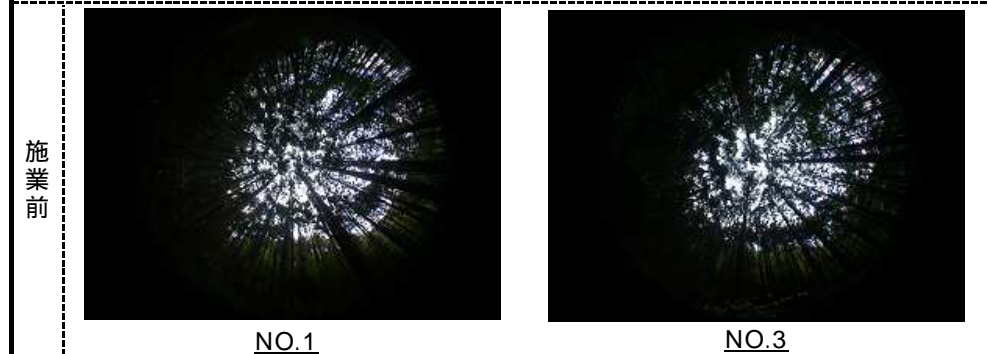
植生・更新調査 【植被率(%)・木本種数(種)の推移】



土壌移動量調査 【土砂の移動量の推移(g)】



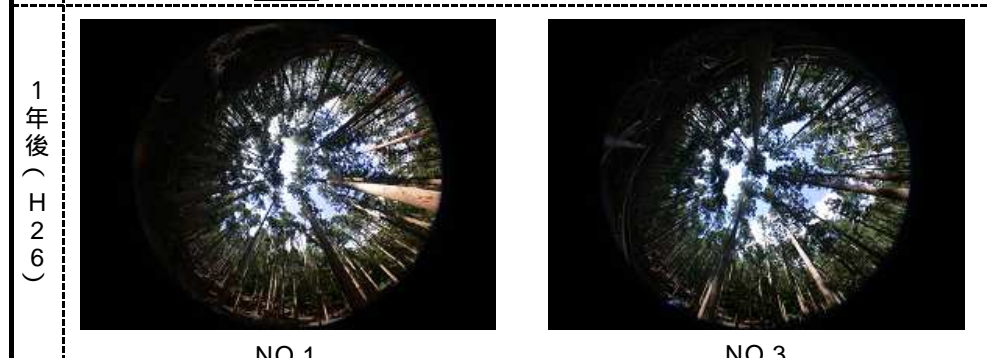
状況写真



状況写真



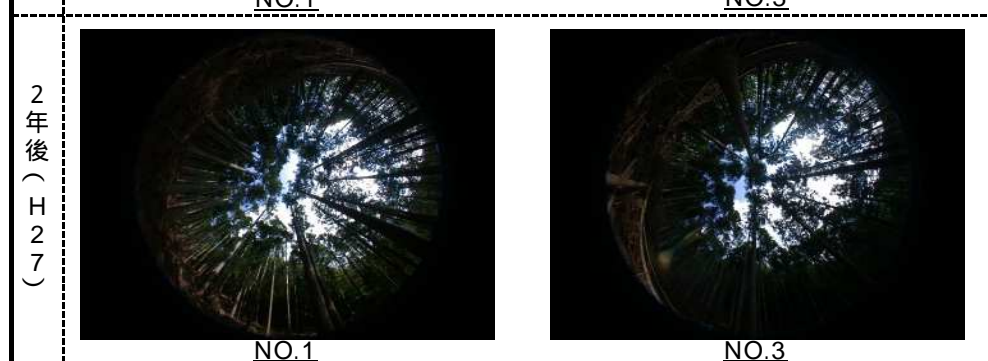
状況写真



【現況】

毎木調査項目	施業前	施業後	備考
調査区内立木本数(本)	50	27	
平均胸高直径(cm)	24.4	32.4	

・間伐の結果、林内が明るくなった。
 ・地表面の傾斜は32°と比較的急勾配。
 ・搬出後の残材が林内に置かれた状態になっている。
 ・スギの落葉が厚く堆積していることから、現時点では洗掘等土砂流出の痕跡は見られない。



【所見】

・植被率、木本種数ともに増加傾向が見られる。
 ・土砂の移動量は減少し、表土が浸食を受けた痕跡は見られず、安定している。

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)



NO.1



NO.3

状況写真

3
年
後
(
H
2
8
)

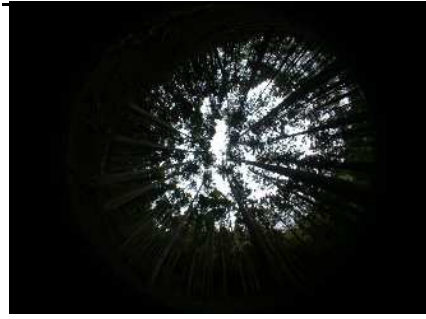


NO.1



NO.8

4
年
後
(
H
2
9
)



NO.1



NO.3

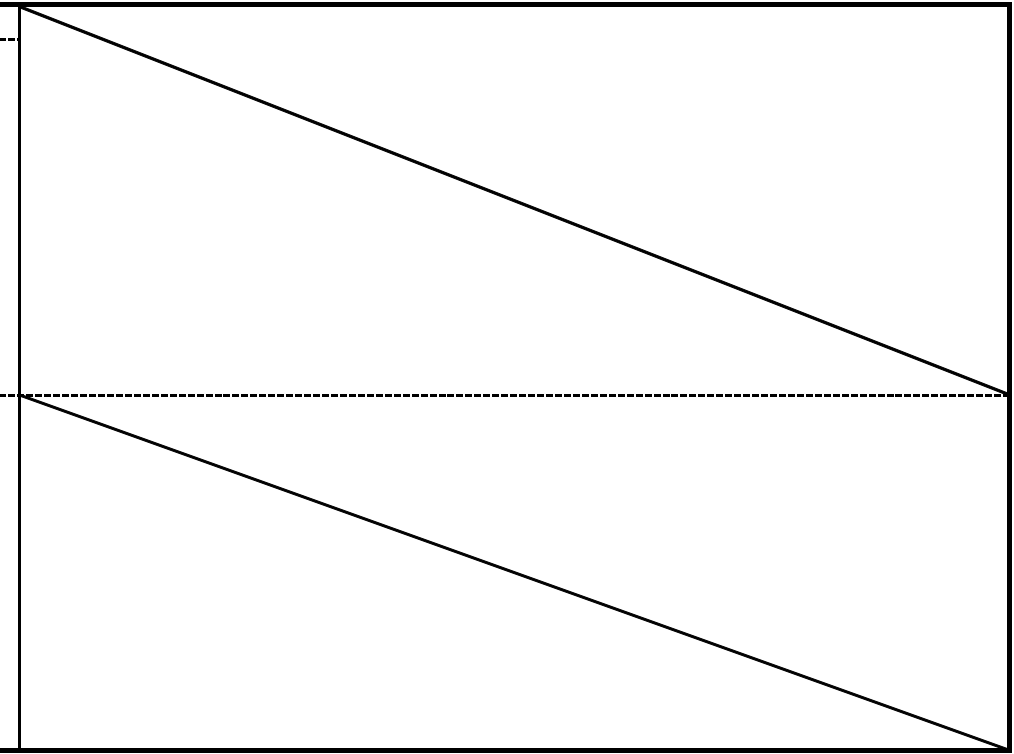
4
年
後
(
H
2
9
)



NO.1



NO.8

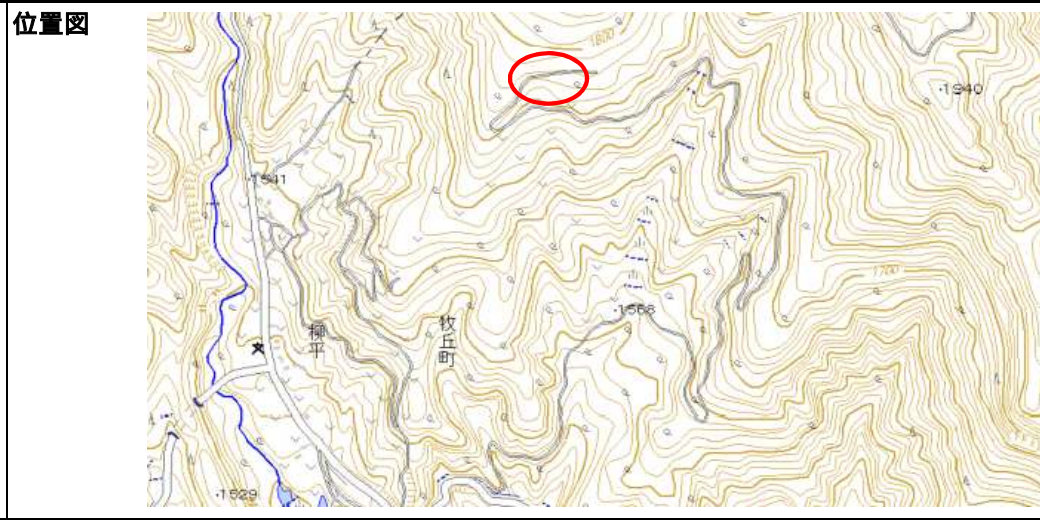


広葉樹の森づくり推進事業 モニタリング調査

調査箇所 山梨市牧丘町袖口山 地内

事業概要

実施年度	H24年度
樹種	ミズナラ
植栽面積	1.84ha
植栽本数	2,700本
〔標準地(10m×10m)内〕	
植栽本数	15本
活着本数	13本
食害本数	4本
破損ネット	1枚

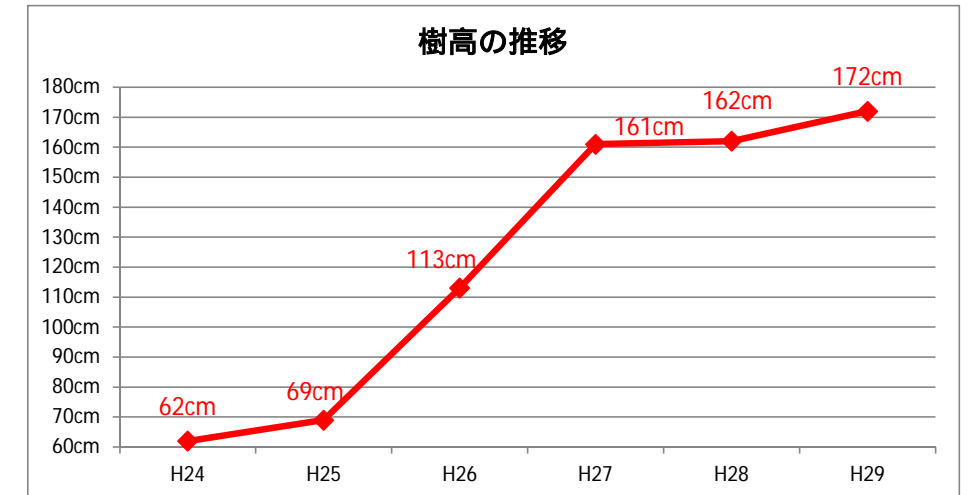
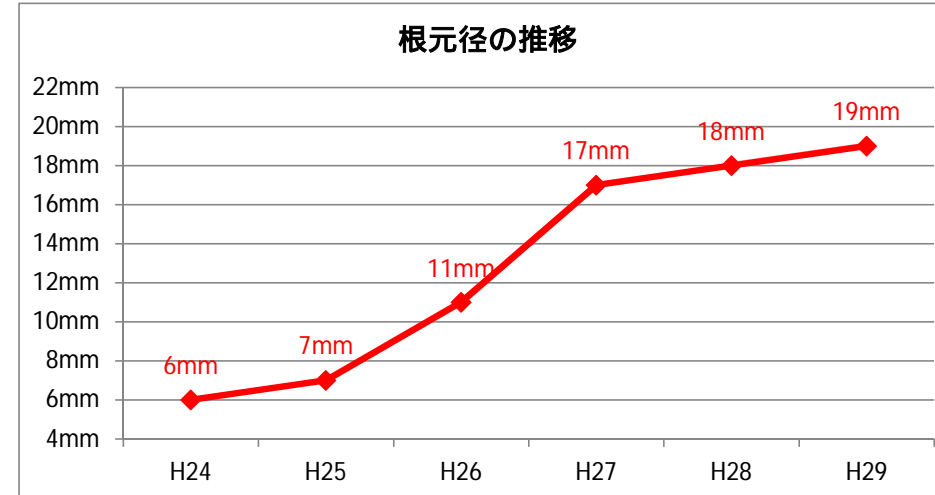
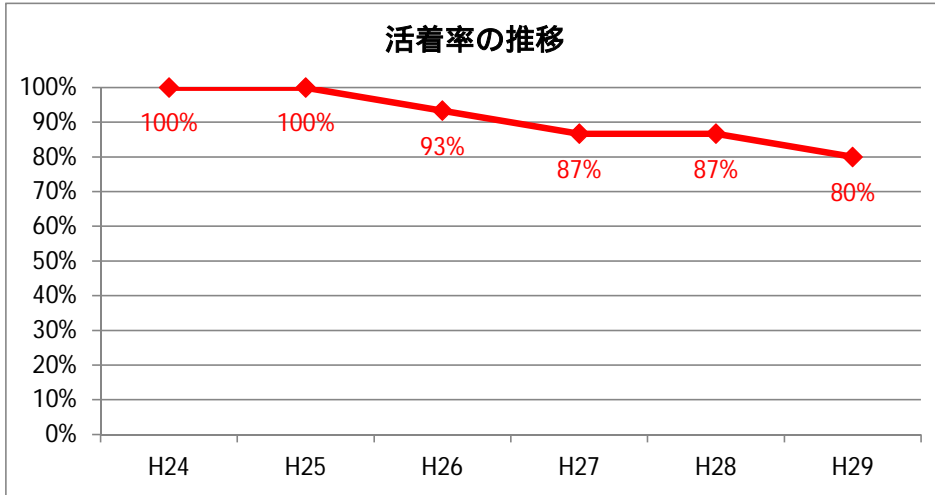


【施業前】



【施業後】

調査結果 (標準地内の状況)



【平成25年度】



【調査結果】
 ・調査区内の全個体が展葉し、根元径、樹高ともに良好な生育状況を呈している。
 ・食害防止ネットにも破損は見られない。

【所見】
 ・順調な生育が伺われる。今後数年間は下刈りを行い、引き続き生育状況や獣害の有無等に注視していく。

【平成26年度】



【調査結果】
 ・枯損木が1本発見されたため、今後適期に補植を行う。
 ・食害防止ネットは全数が健全。
 ・生育状況は、個体間で差異が認められるが、概ね良好である。

【所見】
 ・順調に生育している。下刈り期を中心に点検を行い、獣害の有無等を注視していく。

【平成27年度】



【調査結果】
 ・新たに枯損木1本発見されたため、今後適期に補植を行う。
 ・新たな枯損箇所の食害防止ネットに破損が見られた。
 ・生育状況は、各個体間とも、良好である。

【所見】
 ・順調に生育している。随時、食害防止ネットの点検を行い、獣害の有無等を注視していく。

【平成28年度】



【平成29年度】



【調査結果】

- ・ 食害防止ネットがずり下げられ、食害を受けている植栽木が見受けられた。
- ・ 生育状況は、食害を受けていない個体については概ね良好である。

【調査結果】

- ・ 食害防止ネットがずり下げられ、食害を受けている植栽木が見受けられた。
- ・ 新たに枯損木1本発見された。
- ・ 生育状況は、食害を受けていない個体については概ね良好である。
- ・ 春先に現地確認のうえ、ネット補修を行う。

【所見】

- ・ 食害を受けた植栽木が見受けられるので、随時、食害防止ネットの点検・補修を行い、獣害防止に努める。

【所見】

- ・ 調査対象木は概ね順調に生育していることが伺える。
- ・ 樹高がネットより高くなる個体が出現し始めたので、先端の食害等を含めた生育調査を継続する。
- ・ 食害防止ネットがシカによりずり下げられ、食害を受けた形跡があることから、食害防止ネットの保守・点検を適宜行い、獣害の防止に努める。

広葉樹の森づくり推進事業 モニタリング調査

調査箇所 南巨摩郡富士川町平林奥仙重

事業概要

実施年度	H24年度
樹種	クリ・ミズナラ
植栽面積	1.84ha
植栽本数	3,350本
〔標準地(10m×10m)内〕	
植栽本数	17本
活着本数	14本
食害本数	2本
破損ネット	0枚

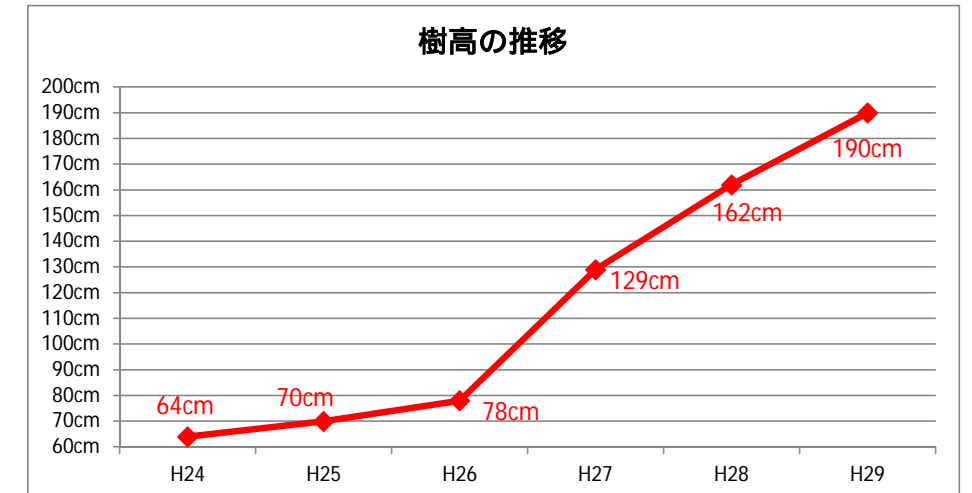
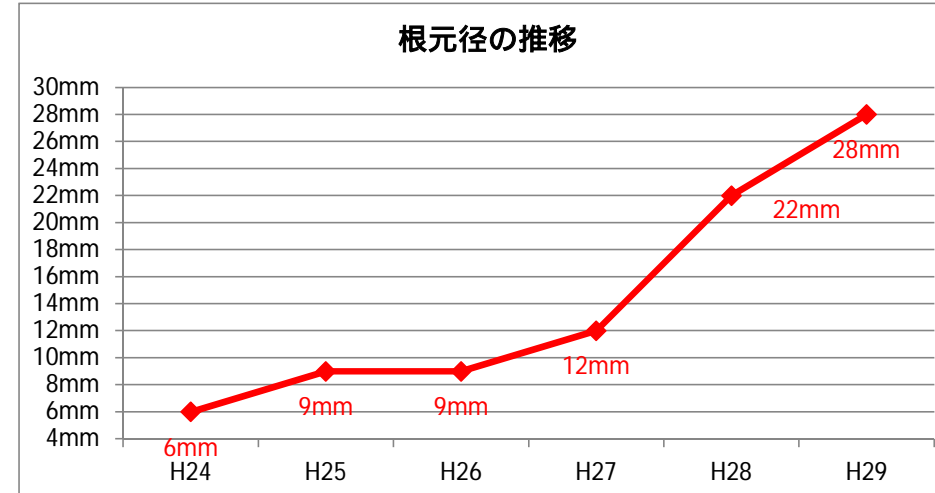
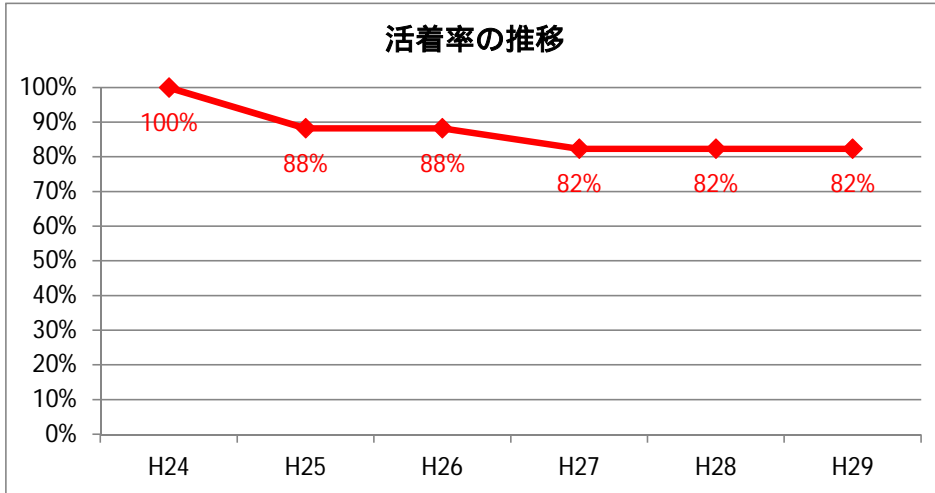


【施業前】



【施業後】

調査結果 (標準地内の状況)



【平成25年度】



【調査結果】

- 調査区内の2個体に展葉が見られないが、全体的に根元径、樹高ともに良好な生育状況を呈している。
- 食害防止ネットには破損は見られない。

【所見】

- ほぼ順調な生育が伺われる。今後数年間は下刈りを行い、引き続き生育状況や獣害の有無等に注視していく。
- 未展葉の2個体については経過観察を行う。

【平成26年度】



【調査結果】

- 昨年度、展葉が見られなかった2個体が枯損し、2個体に先折れが見られた。
- 食害防止ネットには破損は見られない。
- 調査区内で食害防止を設置していないミズナラの実生個体は食害を受けていた。

【所見】

- 2個体に先折れが見られたが、概ね順調に生育している。今後も下刈り期を中心に生育調査を継続する。
- 食害防止ネットの未設置個体が食害を受けていることから、ネットが効果的に機能していることが伺える。

【平成27年度】



【調査結果】

- 昨年度、一部葉がなくなり、生育状況が中庸であった1個体の枯損が確認された。
- 食害防止を設置していないミズナラの実生個体は食害を受けた結果、生育状況は不良であった。

【所見】

- 概ね順調に生育していることが伺える。今後も生育調査を継続する。
- 食害防止ネットの未設置個体の食害が更に進行していることから、ネットが効果的に機能していることが伺える。
- 調査対象箇所近接地の食害防止ネットがシカによりずり下げられた形跡があることから、食害防止ネットの保守・点検を適宜行い、獣害の防止に努める。

【平成28年度】



【調査結果】

- ・良好な伸長成長により食害防止ネットよりも樹高が高くなる個体が見られたが、ネットより高い位置の葉食害、先折れが多く見られた。
- ・食害防止を設置していないミズナラの実生個体は食害を受け、生育状況はネット設置個体と比較して不良であった。

【所見】

- ・食害防止ネットの未設置個体において食害を受けていることから、ネットが効果的に機能していることが確認された。
- ・調査対象木は概ね順調に生育していることが伺えるが、樹高がネットより高い個体の先端に食害を受けているため、対策の検討が必要と思われる。今後も生育調査を継続する。
- ・調査対象箇所近接地の食害防止ネットがシカによりずり下げられ、食害を受けた形跡があることから、食害防止ネットの保守・点検を適宜行い、獣害の防止に努める。

【平成29年度】



【調査結果】

- ・概ね良好に伸長成長・肥大成長している。
- ・一部葉食害、先折れ跡があるが、新たな被害木はない。
- ・実生のミズナラは食害により枯損した。

【所見】

- ・食害防止ネットの未設置個体において食害を受けていることから、ネットが効果的に機能していることが確認された。
- ・調査対象木は概ね順調に生育していることが伺える。
- ・樹高がネットより高い個体の先端は食害を受けているものの、現時点では大きな影響にはなっていない。今後も生育調査を継続する。
- ・調査対象箇所近接地の食害防止ネットがシカによりずり下げられ、食害を受けた形跡があることから、食害防止ネットの保守・点検を適宜行い、獣害の防止に努める。

里山再生事業に関するアンケート調査結果

里山再生事業実施後の地域住民の満足度を調査する目的で実施したアンケート調査の結果を報告します。

1 調査の概要

(1) 調査対象

平成28年度に里山再生事業で整備した里山の周辺地区の内、過去にアンケート調査未実施の地区住民(11地区397世帯)(配票調査法による)

(2) 回答数

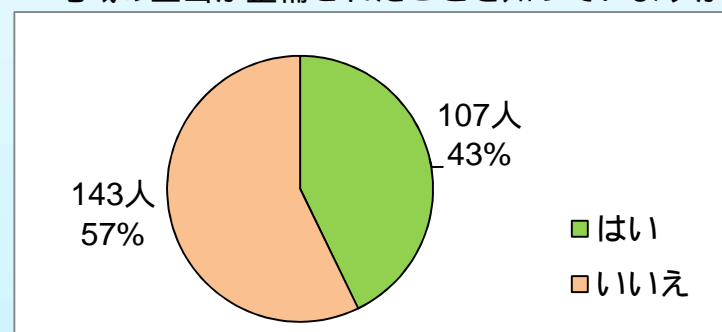
250世帯(回答率:63.0%)

(3) 調査時期

平成29年12月~平成30年1月

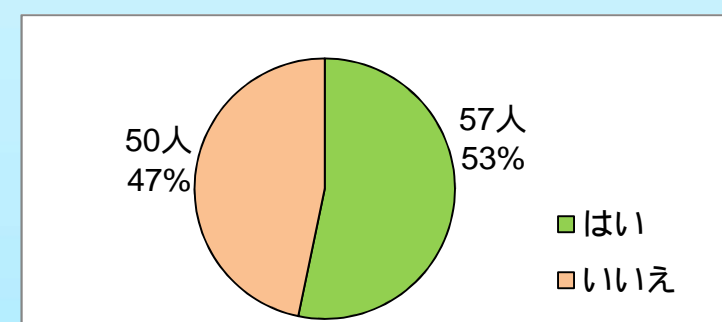
2 調査項目及び調査結果

問1 地域の里山が整備されたことを知っていますか



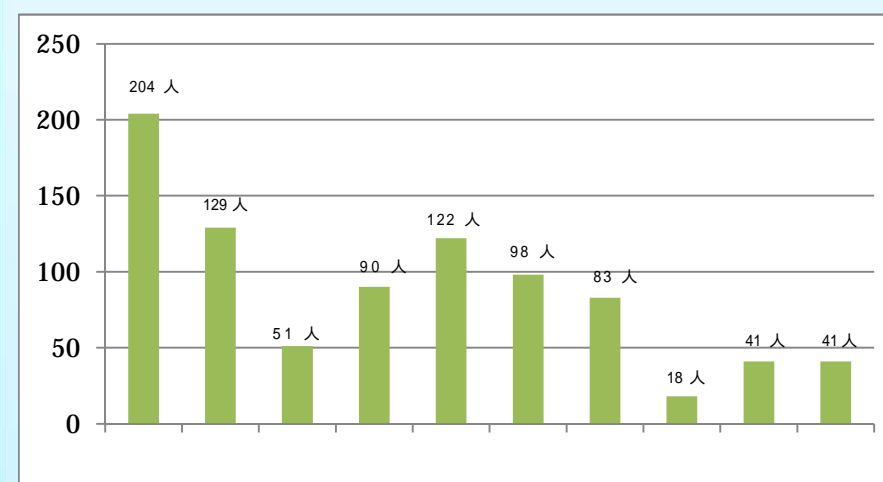
・4割の人が整備されていたことを知っていました。

問2 問1で「はい」を選択した場合、整備に森林環境税が活用されていることを知っていますか。



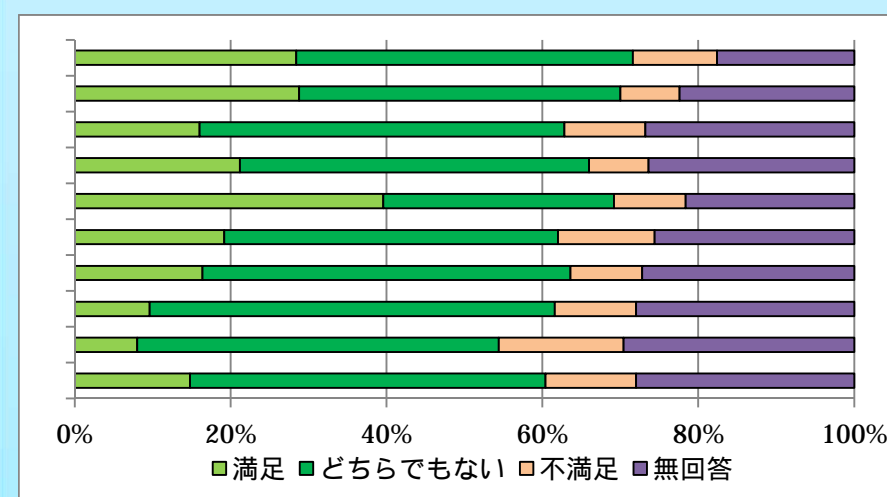
・整備されたことを知っている人のうち、5割の人が森林環境税により整備されたことを知っていました。

問3 里山にどのような役割を期待しますか。



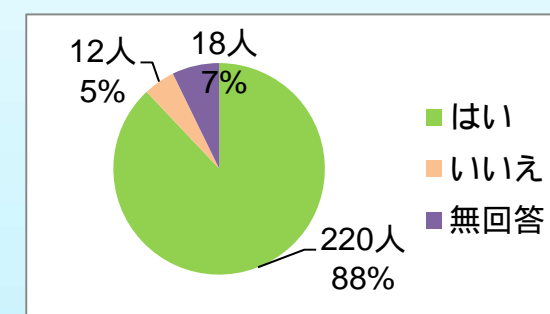
- ・里山の役割として、「土砂流出、崩壊の防止」を期待する意見が一番多く、次に「水源涵養、水質浄化」「森林景観の形成」が続きます。
- ・一方、「文化継承の場」「レクリエーションや交流の場」「環境学習の場」に対する期待は低い状況です。

問4 今回、実施した里山の整備の満足度を役割ごとにお答えください。



- ・満足度では、「森林景観の形成」が一番多く、次に「水源涵養、水質浄化」「土砂流出、崩壊の防止」「貴重な動植物の生息、生育の場」が続きます。
- ・一方、「文化継承の場」「レクリエーションや交流の場」に対する満足度は低い状況です。

問5 今後も里山の整備は必要と思いますか。



・9割の方が引き続き整備の要望をしていました。

問3, 4の質問項目

土砂流出、崩壊の防止

水源涵養、水質浄化

木材資源の生産

貴重な動植物の生息、生育の場

森林景観の形成

緩衝緑地、避難空間、鳥獣被害の抑制

大気の浄化、気候の緩和

文化継承の場

レクリエーションや交流の場

環境学習の場

3 寄せられた意見

見通し良く整備され、獣害被害の抑制に満足しています。山がきれいになり、防災、防犯にも役立つと思います。整備後の景観が素晴らしく、今後も続けて欲しい。山に人が入らなくなり、とても山が荒れてきていると実感しています。里山の整備で山を生き返らせて欲しい。事業規模が小さいのでこれからも継続的に範囲の拡大を望む。また、鳥獣被害の抑制のためにも緩衝地帯が必要である。もう少し地域住民に里山の整備を宣伝して欲しい。竹の繁殖域が拡大している。対策をお願いしたい。整備した年は良いが数年経過すると元に戻ってしまう。整備した後、所有者がいかに管理していくかが課題。こうした整備を通じて人が山には入れるようになると良いなと思う。